

西成生きがい学習センター

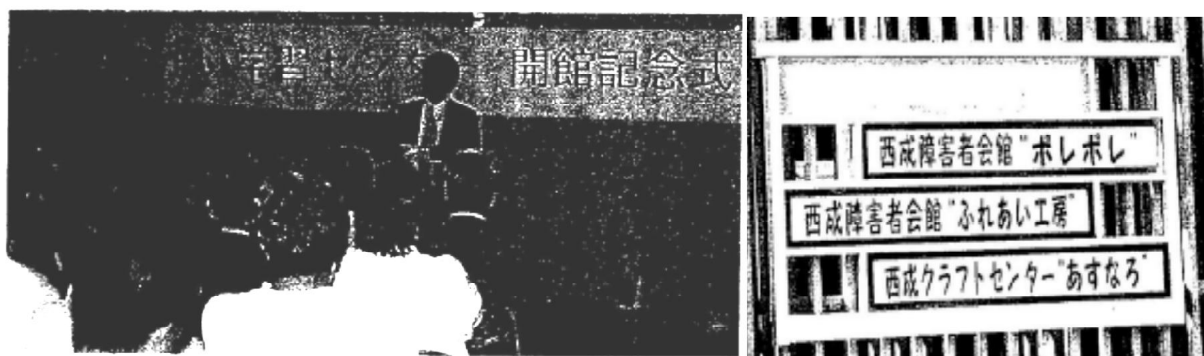
目的意識的な生涯学習、それは「生活と密着」したものであることが必要です。北津守地区街づくり構想の中で「西成生きがい学習センター」は、生涯学習センター建設をめざし、その内容づくりのために開設されました。

北津守地区まちづくり構想の一つである「教育・文化ゾーン構想」として、1997年7月12日に「西成生きがい学習センター」が、北津守保育所の新設にともなう津守西保育所跡を利用して開設されました。

当時、2002年に完全学校5日制が実施されることから、これからは生涯学習の時代を迎えるという状況でした。しかし「生涯学習の時代を迎えるということは、同時に学ぶ機会や学ぶ必要性を認識することを奪われがちな部落の人々にとって、そのまま放っておけばまた新たな格差・差別を生みかねない側面を持っています。したがって、部落においてこそ目的意識的な生涯学習の展開が必要となっていますし、それは単なる時間的余暇を利用した「カルチャー教室」ではなく、識字活動が文字を覚えることを通じて自分を取り戻し、新たな生活目標を描き、仕事のための資格取得等につながっていったように、『生活と密着』したものでなければなりません」。西成生きがい学習センターは、こうした問題意識のもと、「生涯学習センター(仮称)」建設をめざし、その内容づくりのために開設されたものです。

西成生きがい学習センター開館記念式

生きがい学習センター案内板



西成地区総合計画の地区別街づくりの構想である「北津守地区整備構想」は、「大阪市まちづくり活動支援制度」が適用された第1号でした。

北津守まちづくり構想は1996年に発表された「西成地区総合計画」の地区別の街づくり構想です。1994年7月、部落解放同盟が中心になって、長橋、北津守、松之宮の3つの連合町会や鶴見橋商店街連合会、PTAや各種団体の大半を結集して、「西成地区街づくり委員会」が発足、住民が主人公になったまちづくり運動が産声を上げました。西成地区総合計画は大阪市と地元の総合計画委員会、都市計画専門家によって構成される「計画検討部会」が提案したものです。計画のコンセプトは(まちづくりの基本

理念は『未来に輝く人間都市』。こうしたコンセプトのもとで、地域ごとの整備構想を検討し、ゾーン別構想が策定されました。

「北津守地区整備構想」は「大阪市まちづくり活動支援制度」が適用された第1号でした。同制度は、まちづくりに取り組もうという住民団体に、専門家(コンサルタント)の派遣や、調査、学習、活動費を助成する(5年間)もので、北津守地区整備構想が検討され、検討資料として住民に提供されました。

「生きがい学習センター」の設立の目的は『技術を磨く、楽しく学ぶ、民案で集う』ことであり、そのため四つの取り組みを柱に進めています。

「生きがい学習センター」の設立の目的は『技術を磨く、楽しく学ぶ、民案で集う』ことであり、そのため四つの取り組みを柱に進めています。第1の柱は、高齢者・障がい者の生きがいと自立・就労活動の支援、第2の柱は「技術を磨く」分野を担う「西成クラフトセンター・あすなろ」の開設、第3の柱は津守児童館の関連事業をはじめ、地域の子もたちの活動支援、第4の柱は北津守を中心に西成区民の生涯学習施設として活用してもらう、ことでした。

第1の柱

「高齢者生きがい労働事業団」の北津守地区の活動拠点として活用し、また西成障害者会館で活動してきた「精神障害者小規模作業所・ポレポレ」の日常活動の場として活用しました。



精神障害者小規模作業所・ポレポレ

1996年5月7日に開所。ポレポレは、アフリカのケニアの言葉で「ゆっくりと」「ぼちぼち」という意味です。「心の病」で入院していた人や精神科に通院して薬をのみ続けている人がゆっくりと自分のペースで生活していこうという場です。

第2の柱

「技術を磨く」分野を担う「西成クラフトセンター・あすなろ」の開設です。その道の専門家・プロが担当しながら、西成区の特徴（「皮革・製靴・骨粉づくりの街」等）を生かして新しい「仕事の創造」と人材養成を目指そうというものでした。当面は「窯業工房」「木工工房」「皮革・染織工房」「デジタルアート工房」を開設しています。



生きがい労働事業団・西成陶工

木工芸は北津守公園の遊具づくり、陶芸は「津守焼」、そして皮革芸は西成製靴塾に発展。あすなろでは今、電気釜2基で津守焼の量産体制が確立。お年寄りの活躍は大阪市や地方からも注目されています。

第3の柱

津守児童館の関連事業をはじめ、地域の子ども達の活動支援です。プレイルームの開放等の施設利用とともに、高齢者や障害者や「あすなろ」との交流促進をはかるものです。

第4の柱

北津守を中心に西成区民の生涯学習施設として活用してもらうことです。町会や「北津守をよくする会」等の各種会合、西成支部北津守地区委員会の事務所設置等に活用し、地域交流にも取り組んでいます。

取り組みのなかでも、西成の職人技と北欧の伝統的手法から生まれたれんがタイル「津守焼タイル」は、地場産業であるレンダリングと焼き物が融合した手づくりタイルとして注目を浴びました。

津守焼

西成区の地場産業であるレンダリング。その処理からでてくる牛骨灰に土や粘土を混合することにより、新しい焼き物、手づくりタイル「津守焼」が生まれました。制作は、西成区北津守の「生きがい労働事業団“西成陶工”」で、地元の高齢者、障がい者を中心に陶芸家吉野義隆氏の指導監修のもと、原材料の粘土を練る段階から骨灰の混合、型抜き、施釉、そして燃焼にいたる一連の作業工程を全て手作業で行い出荷するという、まさに100%手づくりタイルの生産を行っています。

津守焼タイルの特徴は、骨灰の混合によって醸し出される温かみのある質感と手づくりならではの独特の風合いで、その他、タイル自体に含まれる骨灰が不純物の浄化、臭気吸収作用を促し、今や環境問題にもなっている酸性雨等が路面下に浸透する段階での、フィルターの役割を果たし、土を中性化させ、生態系の保護、活性化といった効果にも

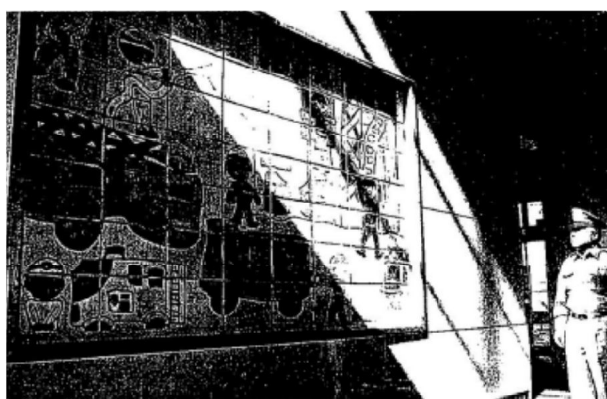
期待できるものです。また、低い熱反射率は路面温度を下げ地球温暖化防止にも役立っています。

北津守公園の遊歩道をはじめ、まちかどホーム「すずらん」(特別養護老人ホーム)では、地元の高齢者や障がい者の人たちと地域の子供達と一緒にタイルに絵を描くなど、住民が主人公になった街づくりを実践しています。

まちかどホーム「すずらん」エントランスホール



西成消防署：玄関ホール 壁面レリーフ



出典：「一変身、5年の軌跡」西成の部落解放運動 発行日：1998年7月15日

発行：部落解放同盟西成支部

：西成まちづくり研究集会'98 討議資料

発行日：1998年3月7日

発行：西成地区街づくり委員会

：パンフレット「津守焼」

：街づくりニュース